

## 「河内長野市総合計画審議会 第3部会（第3回）」会議録

日時：平成26年12月16日（火）

午後6時30分から

場所：市役所3階301会議室

### 出席委員11名

- |            |                |
|------------|----------------|
| 1号委員       | 山口健一           |
| 2号委員（各種団体） | 上奥雅勇、廣瀬義雄、西村道夫 |
| 2号委員（公募）   | 堀泰明、水谷邦子、村上靖毅  |
| 3号委員       | 田中晃代、戸谷裕之、紅谷昇平 |
| 4号委員       | 松倉昌明           |

### 欠席委員1名

浦尾雅文

### 事務局

総合政策部長：辻野

総合政策部副理事兼政策企画課長：小林

政策企画課参事：島田

政策企画課課長補佐：緒方

政策企画課主幹：尾西

### ジャパンインターナショナル総合研究所

伊藤研究員

### 【辻野部長】

ただいまから、河内長野市総合計画審議会第3部会を開催します。お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。第3回目の部会となり、検討も後半となります。本日の議論は、基本構想の第5章、第6章を検討で、第3部会特有のテーマでの検討をお願いしたいと思います。総合計画審議会条例第6条第2項において、審議会は半数以上の委員の出席で成立することとなっておりますが、本日は現時点で10名の委員にご出席いただき、部会員12名の半数以上のご出席をいただいていますので、審議会は成立していることをご報告いたします。それでは、戸谷部会長に議事の進行をお願いします。

## 【戸谷部会長】

議題1について、事務局から説明をお願いします。

(事務局より配布資料の確認)

## 【緒方補佐】

本日の議題は第5章、第6章ですが、まず、第1章～第4章の修正点の説明をします。

総合計画の骨子案の18ページの「1. 急速な人口減少と少子・高齢化への対応」に、一遍に団地が開発されたという河内長野市の特徴を入れた文章を追加し、「3. 安全で安心なまちづくり」では、「大きな災害に遭遇していない」を「地域主体による自主防災組織の活動など、災害対策への意識が高まっています」という表現に変えました。

19ページの「5. 地域の連携による産業の振興」では、民間同士の広域連携があるのではという意見があり「市域を超えた広域的な広がり」、また「企業への支援」という表現がほしいとありましたので、「多様な人材の活用に対する企業への支援」としました。

20ページの「8. 市民主体のまちづくり」の2行目の「予想され」を、活発な自治会活動もあるということで「懸念され」にしました。また、「特に若い世代を含め、誰もが」は、子育て中の女性だけでなく、いろいろな方がいることを配慮して、より広い方に参加していただきたいという趣旨に変えました。「10. 健全で効率的な行政運営と広域連携の推進」は、「自立した行政運営」という表現をしていましたが、何からの自立かという意見があり、「健全で効率的な」という表現に変えました。

審議会や正副部会長会議で「成熟した」という言葉を使ったほうがいいという意見があり、21ページのまちづくりの基本理念に、全体にまたがる大きな理念として入れました。

23ページの「1. 定住人口」では、10万人の理由についてご意見があり、これまで整備したインフラの有効活用や、高次の都市機能を維持するための一定の基準という考え方をまとめて追加しました。また、「目標人口」という表現をしていましたが、下がっていくのに目標という表現はどうかという意見があり、「想定」という表現で示しています。

24ページの「第2節 都市空間の基本的な考え方」の「1. 将来の都市空間づくりの方向性」に課題も書いたほうがいいということで、「道路や公共交通の充実」、「買い物支援の対応」などを入れています。「2. 河内長野市におけるコンパクトシティのあり方」の中ほどの「生活圏」は、取り残されているイメージがあるというご意見があり、「市民が生活を営むのに不可欠な機能の確保を図りながら」とし、生活圏も充実を図る表現にしています。「3. 都市空間づくりの目標」の(1)は、文章の組み替えをして、特に公共交通への意見が多かったので書きぶりを充実しました。(2)では、山の管理も大事だという意見があり、「治山・治水」を入れました。(3)は、山や農地への観光の視点も必要ではないかということで、「生産の場としてのみならず、市民の憩いの場としての有効活用を図り」という表現を入れています。

今日の検討の「第5章 将来都市像実現に向けたまちづくり」では、第3部会に割り当て

られた「第1節 施策の体系」を中心に説明します。検討テーマは、26ページの図「Ⅰ：まちづくりの方向」の基本目標1の「基本政策1 安心を築く危機管理・安全対策の推進」と「Ⅱ：計画実現のための方策」の基本戦略1～3、また、全ての部会で「基本政策11 まちのイメージアップと効果的な発信」をご議論いただきます。

27ページ以降に「事例」を書いています。「基本政策1 安心を築く危機管理・安全対策の推進」では、防災面、危機管理面、消防、防犯関係、交通安全、消費者関係を挙げており、ご議論いただきたいところです。

29ページの「4. 分野横断的政策」、「基本政策11 まちのイメージアップと効果的な発信」は、全部会の共通項目で、「まちの魅力の発掘・創出と磨きあげによる都市ブランド化」、「シティプロモーションの展開（市民のまちへの愛着や誇りの向上、来訪者や転入者の増加、産業の活性化の取組みの推進）」を意識していただければと思います。

30ページの「基本戦略1 協働によるまちづくり」の事例として、コミュニティを中心とした部分、協働によるまちづくりを挙げています。「基本戦略2「選択と集中」による行政運営の推進」の事例として、行政経営やアウトソーシング、職員の能力向上や意識改革、情報化の推進、広域連携の推進を挙げています。「基本戦略3 安定した財政基盤の確立」の事例として、行財政改革の推進による将来を見据えた財政の健全化、自主財源の確保に向けた取り組み、公共施設の最小化・長寿命化と最適化による維持保全・有効活用を挙げています。

31ページ「第6章 計画の推進に向けて」では、庁内の体制として、責任の明確化、横断的な施策の連携、定期的な行政組織のあり方の検証と必要に応じた組織の再編成を考えています。「2. 協働・連携による計画推進の体制」では、団体等との協働のまちづくりの推進体制と、国や大阪府、近隣市町村との広域的な連携・協力体制があります。「第2節 進行管理のしくみ」として、アンケート調査等による市民意識の把握、成果指標の充実を図ること、また、行政評価の活用として現在、事務事業評価で小さな事業について外部評価もしながらやっていますが、この仕組みの検討が必要ということです。また、PDCAサイクルに基づく効率的で効果的な行政経営、基本計画の見直しの実施ですが、外部評価の仕組みを検討しながら、より適正に基本計画を見直すために、毎年どういう形で進行管理していくかと、5年に一度の基本計画の大きな見直しをどうするのかという両方の側面での進行管理が必要ということを書いています。「第3節 予算・財政計画との連動」では、財政の裏付けがないと絵に描いた餅になるという意見がありましたので、どう連動させてつくっていくのかを挙げています。

#### 【戸谷部会長】

廣瀬委員が用意された資料のご説明があればお願いします。

#### 【廣瀬委員】

詳細は資料を見ていただいたら分かると思いますが、私は1,600世帯の自治会長で4年目

です。まちづくりはコミュニティ組織の地域基盤として、自治会が核でやらなければ、計画を立てても成就しないというのが私の持論です。河内長野市は、自主防災組織も全てボトムアップ方式ですので、行政の施策等の指導・援助は必要ですが、行政は事なかれ主義が横行しているし、正規と非正規の職員が五分五分の状態の中で、職員に対しての期待は大ですが、自分たちも少子高齢化で安全・安心のまちづくりをどのように構築するかのコンセプトを持ちながら展開しています。マスコミの取材も多く、大阪で大都市から30分で来られる所で、なぜ買い物弱者が発生しているかというテレビの特集が放映されました。問題提起では、読売新聞に南青葉台のケースが載ったと思いますが、全く同じ状態です。今、地域では人口減少と高齢化が進んでいます。いろいろ資料提供をしていますが、例えば、買い物で移動販売車を入れたことが、毎日新聞に大きく取り上げられましたし、学生がこの問題を卒業論文にということで、取材に来ています。コープ未来、コープ神戸も見学に来ました。なぜそういう所から来られるかというと、地域ぐるみで取り上げて、移動販売車事業が成功しているからです。そういう実績を積み上げ、みんなが求める終のすみかとして、買い物や交通の問題をある程度は克服しているのではないかと言われますが、下げ止まっていた少子化がまた進んできています。少子高齢化でどういう安心・安全なまちづくりをするかということで、子どもにはふるさとづくり、高齢者には優しいまちづくりという形で、いろいろなイベントをやっていますが、市の助成や指導がなければ限界があります。

#### 【戸谷部会長】

大体、説明を頂きましたが、「基本目標1」の「基本政策1 安心・安全を築く危機管理の推進」に組み入れる話と思うので、そこでご意見を頂くことにします。

#### 【廣瀬委員】

18ページの「3. 安全で安心なまちづくり」で、「災害対策の意識が高まっていますが」の「が」を取っていただきたいと思います。

#### 【戸谷部会長】

議事の進め方として、事務局の1～4章までの修正の説明についてご意見がないかをまずお聞きして、その後、第5章、第6章に入ります。今の話は前回の修正点の意見で、18ページの下から7～8行目の「が」を「います。」にということで、4行1文で長いので、「災害対策の意識が高まっています。今後においても」でもいいと思います。この場合の「が」は、「しかし」という意味ではないようですが。

#### 【村上委員】

「が」は、2行下の「行っていく必要があります」を強調するために入っているの、あったほうがいいと思います。

**【廣瀬委員】**

それはそれでいいです。

**【部会長】**

他に、1章～4章で、ご意見やご質問はありますか。私からお尋ねします。23ページの第4章で、「目標人口」を「想定人口」に変えるという話で、前回の説明で、要因を3つに分けて、国が定めている合計特殊出生率が1.8、平均寿命を他市と比べる。あと差分が1,000人ほどあって10万人だったのですが、その分析や分類は入れないのですか。

**【緒方補佐】**

実際に施策、取り組みを進めていく上での考え方としては持つておくべきと思いますが、基本構想の文章の中にまで出すことは考えていません。

**【小林課長】**

説明の文章の中に、「健康寿命」、「子どもを産み育てる環境」が入っていますので、ここに詳しくは載っていませんが、そういう施策をしていくというところです。

**【戸谷部会長】**

そちらに側入っているので、ここでは入れないのですね。分かりました。

**【西村委員】**

19ページの「5. 地域の連携による産業の振興」の「6次産業」はどういうことですか。

**【緒方補佐】**

第1次、第2次、第3次産業を組み合わせ、農作物を製品化し、地産地消レストランのような形でサービス業に展開していきましようということで、それを組み合わせ6次産業化と言っています。

**【西村委員】**

これは一般的なのですか。

**【村上委員】**

最近よく出てくる言葉ですが、難しいかもしれません。

**【小林課長】**

全てのそういう産業を連携して、循環させていくということです。

**【松倉委員】**

農家の方が、自分が作った食材を使ってレストランを経営するような、生産から製品までということです。

**【西村委員】**

生産で終わるのではなくて、2次産業、3次産業的なものも足していくということですね。

**【村上委員】**

サービスを加えると新しい産業になるということです。

**【廣瀬委員】**

計画はできるだけ市民に分かりやすくするということがあるはずですから、「高次な都市機能を維持する」などは、具体的に分かりやすい表現にしたほうがいいと思います。

**【小林課長】**

分かりやすくしたり、注釈で解説を加えたいと思います。

**【廣瀬委員】**

行政マンや専門家は分かるけれども、我々市民は分かりません。審議会の冒頭に「市民に分かりやすい」と書かれているように、具現化できるかが計画だと思います。

**【戸谷部会長】**

他に何かありますか。

**【村上委員】**

24 ページの3の「(2) 安全・安心に暮らせる生活環境を確保する」で、「災害に強いまちづくりや治山・治水」とありますが、「治山」の具体的な実行案があるのですか。今更、河内長野の安全を治山でやっていくというのは何だろうかと思います。

**【堀委員】**

「治山」は必要です。中間山村部が多く、引き続き今後も治山をされないと、ここ最近の大雨で山の中はめっちゃくちゃで、林業にも地域の中間山村の集落にも危険が及んでいます。

**【松倉委員】**

24 ページの「2. 河内長野市におけるコンパクトシティのあり方」に、行政サービスを集積した「拠点」をつくっていきますと掲げていますが、河内長野市がコンパクトシティを目

指していく経緯があまり書かれていないので、唐突に出てきて分かりにくいのではないかと思いますし、「ネットワーク」も同様に、どのような形でネットワークするのかを分かりやすくしたほうがいいと思います。

**【戸谷部会長】**

1～2行上に説明がありますが、少し難しいので説明があったほうがいいと思います。

**【廣瀬委員】**

前回の会議では、三日市町駅に集約するような印象がありました。駅中心に都市機能を持つてくるとインフラは少額でできますが、人口の半数以上は山間地の新興住宅地なので、取り残されて、ますます高齢化になると思います。

**【戸谷部会長】**

第2部会の主要テーマなので、第3部会でそういう意見があったと伝えていただきたいと思います。第5章、第6章に移りたいと思います。第3部会の担当は、「基本政策1 安心を築く危機管理・安全対策の推進」と「基本戦略1 協働によるまちづくり」、「基本戦略2 「選択と集中」による行政運営の推進」、「基本戦略3 安定した財政基盤の確立」で、まだ文章化されていなくて、主要な言葉が羅列されている状態ですが、ご意見はありますか。

**【松倉委員】**

27ページの「事例」の意味合いは、例えばこういうことがありますという趣旨で書かれているのか、こういうことを推進していくという施策を書かれているのかが分かりません。

**【小林課長】**

検討するにあたって漏らしてはならない視点という意味合いで、これを踏まえて文章化して、次回の部会でお示ししたいと思います。

**【部会長】**

市民の中だけでは完結しないこともあると思いますので、警察との連携に触れていない点が気になります。

**【小林課長】**

防犯関係で警察も含めて関係団体との連携強化は重要な課題で、現にやっておりますので、文章化するときに入れたいと思います。

**【上奥委員】**

併せて交通関係も、警察との連携を考えていただきたいと思います。

**【廣瀬委員】**

空き家、空き地対策はどこに入るのですか。

**【緒方補佐】**

第2部会の担当で、29ページの「基本政策9」の2つ目に「住宅環境の向上、空き家・空き地対策の推進」に入ります。

**【水谷委員】**

自治会で近々に2人の死亡例がありました。1つは、姿を見かけないので隣の方が通報されて、警察が見に来られましたが、住居侵入や鍵など、責任を誰が取るかということで開けずに、市や社会福祉協議会などに言ったりして、結局、数カ月放置され、隣の方がかなり強硬に言われて、見つかって、中で亡くなっておられました。

もう1点は、前日はいらっしゃって、ごみ当番だけ準備をされていないので警察に来ていただいて、鍵を壊すにあたって責任を取れるのかという話になって、そのときはおつきあいがあるので責任はこちらで取るという形で開けると、やはり倒れていたのですが、1日で発見できたということで、孤立死と孤独死の違いが出ました。市で活動している警察や社会福祉協議会の関係をきちんとすることが、この総合計画の大事な視点だと切実に感じました。

北摂の市では、1カ月～2カ月不明の場合は、市の責任で開けて確認するというのを条例化している所があります。何も言わずに長期の旅行や引っ越していたなどがあるので、一概に線引きするのは難しいと思いますが、防犯・交通と同時に、今後、行政は、福祉・病院・国の組織等と警察との関係もしっかり考えていかなければいけないと思います。

**【村上委員】**

地域の中で孤独死などがありますが、行政だけでは対応できないので、地域で高齢者の見回りなど、協議会的な地域ネットをつくっていかねばいけないと思います。

**【部会長】**

これは、「基本政策2」とも関係がありますが、どちらで書きますか。

**【小林課長】**

何を主体に考えるかですが、高齢化・孤独死の問題は、「基本政策2」の「地域福祉の推進」の中に書きたいと思います。「基本政策1」の部分では、主に防災・防犯・交通安全で、直接の安全・安心という部分でまとめたいと考えています。

**【村上委員】**



それでいいと思いますが、福祉とは少し意味が違い、安心して住めるということが必要だと思います。

**【田中副部長】**

イノシシ・猿・鹿などが出没して、共生していかなければいけないと言われますが、農業に従事している方は深刻な被害を受けています。市内で問題として出てきているのであれば、補足する必要があると思います。

**【上奥委員】**

山間部だけでなく、三日市の駅の東側でもイノシシが出ていますので、河合寺などから町のほうに移ってきていると思います。アライグマも出ていて天見では作物がやられています。

**【廣瀬委員】**

私はアライグマを捕獲しましたが、畑の3分の1がやられましたし、住宅地や通学路にもイノシシが現れました。川上地区は、まちづくり協議会が市から頂いた40万円でイノシシ退治に着手したそうですが、今、全市的に被害が出ています。

**【戸谷部長】**

それを、この中にどう書くかということです。

**【小林課長】**

イノシシの関係は、「基本政策10」の産業で農作物被害で扱います。人的被害を及ぼすので対策が必要であれば、安心安全の分野でも検討します。

**【廣瀬委員】**

天野小学校が山間にあるので、通学路にイノシシが出没しています。

**【部長】**

広い意味では自然災害ですか。

**【小林課長】**

市では産業の分野で考えています。

**【西村委員】**

基本的には山の問題で、里山づくりとも関連していて、山が荒れているからイノシシが出やすい環境になっているので自然の問題としても捉えられると思いますが、実害的には農家

が困っているということはあると思います。

「基本政策2」で、福祉の中に障がい者の自立支援を掲げていますが、障害者差別解消法ができて、それに基づく施策が必要になると思いますので、障害者権利条約が批准され、障害者差別解消法が成立しているということと言葉としても触れたほうが良いと思います。具体的にはイベントをする際、今までは行政に支援していただいていたのですが、これからは主催者側が確保することになり、手話通訳と要約筆記を入れると、1回のイベントの経費が十何万円もかかることがあり、今後もこのような事態が出てくると思いますので、障害者差別解消法に際した地域づくりやまちづくりを意識しないと、大変なことになると思います。

#### 【戸谷部会長】

それは、「基本政策2」に入れていただきます。

#### 【紅谷委員】

東日本大震災では大川小学校の被害や、保育園でも子どもが被害を受けて裁判になっていますので、「基本政策1」の事例、「防災体制の充実、家庭や地域の防災力の強化による減災の推進」に、学校、企業の防災、保育園など施設系の防災も含めたほうが良いと思います。あと、要配慮者対策を福祉に入れる方法もありますが、外国人やハンディキャップを持っている方や高齢者などがあるので、特出しで入れてもいいと思います。

#### 【松倉委員】

ここが被災した場合は協定を結んでいる他市から応援が来るという、広域的な防災の連携のイメージも必要だと思います。

#### 【戸谷部会長】

第3部会の担当の29ページの一番下の「基本政策11」、30ページの「基本戦略1～3」のご意見を伺いたいと思います。

#### 【堀委員】

河内長野市ではまちづくり協議会が進められ、私も参加していますが、連合自治会とまちづくり協議会は地域がかぶっています。さらに、まちづくり協議会は、小学校区単位の所在地にある企業、NPO等、その地域に関わる人も対象です。将来、連合自治会と協議会を整理されるつもりなのか、このままでいくのかをお聞かせいただきたいと思います。まちづくり協議会は、まちづくりの根幹をなす施策として、市長の考えもあってつくられていると思いますが、市は従前の老人会や青少年指導員等を含めて、まちづくり協議会の形を狙っていて、指導していただいている大学の先生は、要はネットワークで、ある特定の目的でまとまっている連合自治会でうまくいっている所は、協議会は要らないという話をされました。予

算的には、連合自治会は少しあって、自治会は付かないけれど、協議会には一定の予算を頂きます。各地で自治会の問題はあると思いますが、うちも役員のなり手がなくて、仕方がないので順番制で班長を出すなどして、何とか最低限のことをしています。

**【西村委員】**

要は、「基本戦略1 協働によるまちづくり」の「コミュニティ活性化のための担い手づくりや既存の組織への支援と組織強化」だと思います。ここに、具体的に「自治会」や「協議会」という文言を入れてはいかがですか。

**【堀委員】**

どういう役割になるかを、もう一度整理していただきたいと思います。

**【上奥委員】**

自治と協働を担当する行政組織はもともと同じだったのですが、今は分かれています。分かれたことによって、連合自治会の自治会活動とまちづくり協議会との関係があやふやになったのではないかと思いますので、きちんと整理してもらいたいと思います。

**【小林課長】**

まちづくり協議会は、発足して間がなく、これからつくっていくところですので、連合自治会のあり方、自治会、その他の団体、補助金のあり方も含めて検討したいと思います。

**【山口委員】**

これは、ここにおられる部長も課長も周知のことだと思います。議会の中でも、何人もの議員が、今言われたことを議論しています。連合自治会は、今7つで、まだできていない地域もありますが、まちづくり協議会と並行して進めようとしています。連合自治会は20万円、まちづくり協議会は40万円の補助金を出して事業を展開していますが、地域の人は、これはどちらでやったらいいか整理がついていない状態です。せっかくこういう議論が出てきたので、市長、副市長に部会、全体会でもいいので、この場に来てもらって、委員の意見を聞いてもらい、その上で判断してほしいと思います。

**【廣瀬委員】**

私の場合はもっと切実です。基盤である自治会の運営費はゼロで、こういう計画を立てて成就しますか。私はこういう計画なら委員を辞任します。私が、先ほどの資料を提出したのは、やるだけやってみようということです。人口減少を止めようと思えばできます。雇用形態を変えて賃金を上げれば、結婚ができます。本来、こういうところから、地域の情勢を分析して、問題整理、提起して、住民の皆さんには政策を示すべきです。私どもでいう自治会

の方針ですが、これがサニータウンの自治会で、一定の評価を得られて、いろいろなマスコミの取材が来ているのはそういうことです。ですから、この自治会の地域の基礎組織が疲弊しているような形でいくら計画を作っても、成就しないと思います。

#### 【堀委員】

自治会にてこ入れしたほうがいいのかというのは、同意見です。全国的にも、行政の一部の仕事を自治会が担っていて、それに対して自治会長にある程度の報奨金を出している所もあります。大変なのでしっかりやってくれる人がいないので、そういう検討の余地はあると思います。私は、市の行政、地域の業務を協議会や自治会に分散して、市民ももっと動いて、協力して経費を削減し、組織は整理しなければいけないと思いますが、その一部を、地域の自治会や連合自治会や協議会の活動資金にしたらいいと思います。縦割り行政と耳にはしていましたが、市役所はまさにそういうところがあって、老人会、子ども、幼稚園とそれぞれ課が違いますし、自治会、協議会も課が違いますがみんなで高齢者を何とかしなくては行けないと、老人会のほうにも協議会のほうにも、というふうにかぶっているのです。ある意味、小学校単位くらいで地域のいろいろな団体を連携する協議会のようなものをつくって、そこに市が一括して予算を移管して下ろし、いろいろなことに使って、小さい地方自治みたいな感じを狙っているのかと思います。

#### 【上奥委員】

地域のことは、基本的には自治会だと思います。自治会は、自治会の中で起こっている問題を解決していく、そして小学校区単位で連合町会をつくって、地域の自治会との関係の中で解決すべき問題はそれで解決していける。だけど、消防や交通、防犯や防災の問題になると、いろいろな関係団体との連携もやらないと解決できません。基本的には自治会なので、自治会の常設をまず考えますが、連合町会が7カ所くらいしかできていません。これも、自治振興課において、連合自治会をつくってほしいという話を連合町会議で検討してきましたが進んでいません。そういう状態の中で、並行して行政組織が自治振興と協働が分かれたので、協働の方で独自に協議会という発想を出してきたのだと思います。そうすると、自治会、連合町会もできていないところで、協議会をつくる話が進んでいるという、非常に矛盾した話が出てくるのです。そういう所は、まず、自治会なり連合町会をきちんとした上で協議会をつくる話を持っていかないと、順番としてはおかしいと思います。

#### 【戸谷部会長】

複雑な状況というのが現実のようです。

#### 【水谷委員】

今、自治会の加入が減って、自治会が成り立たなくなりつつあるのは事実です。入らない

理由として、若い人で、面倒くさいとか、自治会に入らなくても行政のサービスを受けられるので特に生活に困らないという方と、高齢で自治会のお役に立てない、班長が回ってきても何もできない、申し訳ないから会を辞めさせていただきますという方がたくさんいらっしゃいます。私に関わっている自治会は、会員を対象とした催しや事業を考えますので、実際にお住まいでも、会員以外の方はイベントの案内はかかりません。だから、その地域に住んでいる人全員が自治会のメンバーであり、みんなで自治会を盛り立てようという時代から、少しずつ変わりつつあると思います。私は、地区福祉委員会に加入していますが、小学校区の全員の住民を対象としているので、自治会との関連が非常に難しく、自治会会員以外の高齢者の方に対してはアプローチしてもいいのですが、自治会では、会員ではないのでできにくいという矛盾はあります。

#### 【堀委員】

会費を納めてもらっていないとか。

#### 【水谷委員】

それと、ごみ当番はどうするとかです。

#### 【山口委員】

いくらこの議論をしても終わらないと思いますが、河内長野に住んでいる方が身をもって感じているところです。市の組織の中にまちづくり協議会を進める市民協働部署と連合自治会を推進していく自治推進の部署があって、どちらも大事だからとどちらも進めて、住民が困っているのです。この大事な総合計画を作成しようとしているときにそういう議論が出ているので、市は、真摯にこの意見を聞いて、2つを担当している部長に、こういう場に来ていただいて、議論しておくべきだと思います。去年から議会でやって、今年の3月に「その部署の組織の整理をします」と答弁しても、何も変わらずに続いているのです。

#### 【廣瀬委員】

議会に私を参考人招致してください。なぜうちに連合ができないかという、自治会の40周年記念誌に書いています。1つ問題整理するとしたら、自治会のボランティアは地域型で、まちづくり協議会は、自分たちの動向とか、趣味とか、森林ボランティアとかでテーマ型です。うちは1,600世帯で、事情がある方以外、会費の未納者はゼロです。地域の特性で全部戸建てなので、空き地であろうと、会員であろうと、事業者であろうと、1区画持っていれば、自治会費、空き地・空き家の場合は共益費、お店を持っている場合は賛助会費で500円をもらいます。

まちづくり協議会は、多様化した高齢化社会で、団塊の世代をどういうふうに関与力として活かしていくかに視点があります。全員参加のまちづくりで、「1人はみんなのために、み

んなは1人のために、思いやりのある町サニータウン」がスローガンですが、当然、高齢者の方は班長ができません。自治会は合意・納得の世界ですから、班のみんなで話し合ったら必ず解決します。私は、こういう総合計画も展望を持って、プラス思考でやりますが、仕掛けはどうするかは、そこの地域の特性があるので、必ず成功するは限りません。

#### 【村上委員】

地域のコミュニティは、自治会と連合自治会とまちづくり協議会の3本立てになっているので、地域の連合体がしっかりしていたら協働が進むと思います。次回までに、まちづくり協議会の進む方向や競合するどこを調整するか、市の基本的な考えを聞かないと前に進みません。自治会、まちづくり協議会、連合自治会の3本立てで、いろいろな狙いでやっていると思いますので、この狙いが市民に理解されるようにしなければいけないと思います。

#### 【堀委員】

老人会、子ども会など自治会の組織の一部、青少年指導員、福祉委員、民生委員など地域に根差した各種委員などの組織がありますがその役割の整理が必要です。

自治会も老人会も高齢者のことを何とかしないといけないと言っていますし、みんながターゲットにしている、担当課がそれぞれの部署でやられているためかばらばらなので、市の中の連携や地域との連携をこの機会に洗い直していただきたいと思います。

#### 【戸谷部会長】

事務局は、よろしいですか。

#### 【山口委員】

事務局をお願いします。調整して参加するのは無理ですので、それぞれ担当している課長、部長をここへ来てもらって、実態を聞いてもらってください。

#### 【田中副部会長】

私は、協働のまちづくりでいろいろなところに行っていますが、トップダウンでやられた所は、素早く全市レベルで組織ができていますが、非常に問題があります。地域の特性や地域課題も過去10年、20年でいろいろコミュニティ活動をされてきた所は、がっちり組んでいて、協働もうまく進んでいます。トップダウン以外の自治体は、ゆっくりやりましょうというスタンスで、10年～20年かかってもいいと、地域に役所の人が入って行って、地域の特性に合わせて、住民の方と一緒にどうしたらいいかを考えていく。3年～4年では、熟してなくて、地域も納得しないので、あまり早くやっしまわないほうがいいと思います。

がっちり運動を展開して、会長さんも強く、みんなが信頼している地域は、どんどん組織をつくり、まちづくり計画や予算を提案したり、ばんばんやったらいいけれど、そうではな

い所は、組織を一律にした形のイメージ等は持たないほうがいいと思います。

**【上奥委員】**

いろいろな事情で自治会の役が回ってきてもやれない方がいるのに順番制でやると、自分が当たった任期を何とか終えればいいという感覚になるので、まちづくり協議会で考えても、そんなに短時間で、役だけやってまとまるわけがありません。

そういう中で、行政は協議会を早く立ち上げるという形で、各小学校区の自治会、連合町会・自治会ができていいる所は連合町会や自治会に話を持って行って、実現しようと思えば、トップダウンで、役をやっている人たちが中心になって一気にやっしまおうということで、まとめるという話しかなくなっています。基本的には自治会がベースなので、役員になれない人がいた場合、地域の方々に助け合ってやれる人の中でやっていく形を考え、形ができて効果が出ない場合は次の会長に代わったり、役員に立ってもらって議論をして、その根本的なところから積み上げて、一つ一つをクリアにしないと、前に進まないと思います。

**【戸谷部会長】**

他のところも議論をしたいので、「基本戦略1」は、今のところとさせていただきます。

**【村上委員】**

29 ページの「基本政策 11 まちのイメージアップと効果的な発信」で、河内長野は奥河内の観光ベースが一番の目玉ですが、最近は、「くろまるの郷」という歴史文化もあります。イメージとしては、観光とくろまるの歴史文化のどちらですか。観光と歴史文化の両方を並走させたいと思うのですが、うまく持っていけないと、二兎を追うものは一兎をも得ずになってしまってインパクトがないという点を考慮して、イメージを創り出したほうがいいと思います。文化・歴史・観光の3つが、河内長野のイメージアップにつながるようにしていただきたいと思います。

**【小林課長】**

ブランド化は、個別にイメージアップを図っている状況ですので、来年度、都市魅力戦略課を中心に、都市ブランド化で、市のイメージ化の取り組みをしようとしています。ブランド化を図って、平成 28 年 4 月を目指して整理して、打ち出していく予定をしています。

**【村上委員】**

1 つではなく、複合的な魅力を出していただきたいと思います。

**【小林課長】**

市として、イメージ的な部分の魅力をつくっていきたいと考えています。

**【西村委員】**

「基本施策 10」に「観光魅力の向上、観光消費の活性化による観光産業の推進」とありますが、油屋はなくなり、水車は1つしかない上、朽ちかけています。ブランド化、観光化もいいけれど、もともとあるものを上手に活かすという意味では、油屋をつぶしたのは大失策で、あの手は、高野街道も見所がなくなりました。古い良いものを残さないのですか。

**【村上委員】**

文化や歴史や観光を保っていくと言いますが、戦略がないので、「金かかるからやめておけ」ということになるのです。

**【西村委員】**

行政として、今ある観光資源をもっと活用してほしいと思います。

**【上奥委員】**

今は、高野街道再生プロジェクトを作っています、そういう機運が生まれていない時代だったので、個人の持ち物の油屋を壊してしまったのです。今の時代だったら、象徴的な部分だけでも残して、かなり大きなインパクトになって高野街道とつながったと思うので、残念です。

**【堀委員】**

「テクルート」は今も生きていますが、予算の関係からか、山間部のほうは荒れています。鳥地獄という面白い名前に興味を持たれる所は、2年前の大雪で木が50本~100本ほど倒れたままです。道の整備も予算をかけてやっていますが、もうやめるのか、するのだったら最低限のことはしないとイケないと思います。ボランティアをもっと積極的に利用してほしいし、土地の所有者を調べてもらってやりましょうと職員に持ちかけても、担当ではないとか、分からないと言われた実態もありました。行政と市民がうまく協力できると、お金を使わなくても、行政にうまくリードしていただいて、市民がボランティアで直せることもあると思います。

**【廣瀬委員】**

31ページの第6章の第1節の「1. 庁内における計画推進の体制」で事なかれと縦割り行政の問題提起をしていきたいと思っています。

**【戸谷部会長】**

第6章の第1節の「1. 庁内における計画推進の体制」は、山口委員が言われた担当課の



問題と関連があります。

**【廣瀬委員】**

行政の中で、予算の配分を見直していただきたいと思います。

**【戸谷部会長】**

「基本戦略3 安定した財政基盤の確立」は、人と企業を呼んでこない税金は入りません。それは人口予測や少なくとも維持していくということとは連携すると思います。あとは、まちづくり協議会など行政で重複しているところをシンプルにしていくことが、選択と集中になるとは思いますが、この項目だけでは議論しにくいです。

**【田中副部会長】**

「第2節 進行管理のしくみ」で出てくる外部評価のしくみは、どういう人たちがどういうふうに関与をしていくのですか。

**【緒方補佐】**

今現在行っている事務事業評価は、学識経験者、市民の方が入って、毎年10ほど抽出して評価をしていただいています。今回、総合計画の基本計画の部分を前期・後期に分けるので、前期の3年くらいの見直しのときに施策の評価をしながら、後期はどうしていったらいいかを学識経験者や市民の意見を聞きながら組み立てていきたいと思っています。

**【西村委員】**

「第1節 計画推進の体制」ですが、市の政策推進課に女性はいらっしゃいますか。

**【緒方補佐】**

現在は男ばかりです。

**【西村委員】**

意識的に数字を上げるつもりでやらないと女性の参画はできないので、推進する体制の問題として入れたほうがいいと思います。

**【廣瀬委員】**

職員の人員構成を調べましたが、男女共同参画といいながら女性の管理職（課長級以上）は、641人のうち4人しかいないのが河内長野市の実態です。今、提案されているように、女性の目線から見た行政のあり方は、大事だと思います。

**【辻野部長】**

審議会委員の登用は、40%を目標数値としていますが、現在では30%くらいにとどまっています。職員は、パーセンテージは少ないですが、「第2節 進行管理のしくみ」の外部評価をしていく場面では女性の参画もあります。

**【小林課長】**

「基本政策7」で推進していくという方向性を掲げています。

**【廣瀬委員】**

第2節のPDCAサイクルのActionの中で、「事業実施方法・主体の検討（アウトソーシング、協働など）」のアウトソーシングは、業務を外注するということですか。

**【小林課長】**

そういうことも含めて検討していくということで、適切な役割を決めていきたいと思えます。

**【廣瀬委員】**

正職員を減らしていくと、丸投げ方式になります。先日の国政選挙では、投票事務もシルバー人材センターで頭数をそろえていたので驚きました。

**【小林課長】**

そういうことではないと思えます。適切な担い手をしっかり検討した中で、そういう方式にしています。

**【部会長】**

議論は尽きていませんが、時間がきました。事務局から今後の予定をお願いします。

**【緒方補佐】**

今回は、今日頂いたご意見と2つの部会の意見を合わせて、案を作ってお提示させていただきます。今回は、部会の最終と考えていまして、引き続き第5章・第6章のご検討をいただくのと併せて、第1章～第4章までの案に対してご意見を頂きたいと思えますので、よろしくお願ひいたします。時期は、1月下旬頃を考えています。日程が決まり次第、早急にご連絡させていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

**【部会長】**

どうもありがとうございました。